

人間にとって老いは当たり前であり、正常なことです。ところが、「老ける」ことは「老い」とは明らかに違います。

「老ける」とは、生きる意欲を失う、何をする目的も無い、気力が無くなる、などの姿を指します。つまり、精神的な衰えが主なるものですが、決して中高年が対象とは言えません。若者にも老け込む要素は多くあります。逆に高齢者になっても、背筋をピンと伸ばし、目を輝かせて生活している人も多いのです。

例えば、法人局にご協力いただき、毎月、全国各地へ出張されている参事・副参事の方々は現在四十二名おられます。全員が七十歳を超えています。若々しく元気に取り組んでいただいています。その若々しさ、元気の理由を一言でいえば、「人の喜びを我が喜び」として目標(使命感)の実現に燃えていることです。

講演会や研修の際、時折、会場に向かって、「皆さん、お立ちください。そして隣の方と握手をしてください」「軽く体操をしましょう」等の声をかけることがあります。その際の反応は様々で、中にはやれやれ、面倒くさいなあ、なぜ立たなければならぬんだ、という思いが顔に出ている人も見受けられます。こうした人たちは、老若男女を問わず、精神的な衰えが始まっている証拠です。

「希望は心の太陽」です。希望を持つ人は、常に若々しくいられます。希望の源泉となるのが「目標」です。目標を作り出すことが、老け防止の良き特效薬といえるのです。

## 希望は心の太陽だ 常に前を見て歩こう



え・栗木 映

さて、世の中には凄い目標を持つチャレンジャーがいます。富士山の最高齢登頂記録を持つ五十嵐貞一氏(福島県)です。明治十九年生まれの方は、九〇歳から一〇三歳まで連続十三年間、長寿祈願と積善のために登り続けたのです。その十三年間の軌跡が、登山口の食堂に記されています。

古市忠夫氏(兵庫県)も、希望を前面に出した人です。氏は神戸市内でカメラ店を経営していましたが、阪神・淡路大震災で被災。地元の自治会会長や消防団長として、我が家の危急も省みず、人命救助に走り回りました。その結果、店舗は全焼してしまつたのです。唯一焼け残つたのが、自らの趣味であるゴルフバッグ。その瞬間、「お前はこれで生きなさい」と天に告げられた感じがしたそうです。そこで自らの「復興」を目標とし、見事六十歳にしてプロテスト合格を果たしたのです。

日本プロゴルフランドシニア選手権で初の日本一に輝くと、思いもよらぬ試合への出場権が舞い込みました。アスリート世界一決定戦・フェニックスチャレンジです。そのマッチプレーの初戦相手は、なんと世界王者タイガーウッズ。その夢のラウンドで、惜しくも敗れましたが、氏は周囲も驚くような大健闘を見せたのです。

言うまでもなく、現在の経営環境は非常に厳しいものがあります。それだからこそ、経営者は自らの心に火をつけるのです。悲観は雲であり、憂いは霧です。さわやかな希望の風で吹き払い、そして目標を高く掲げる時、必ずや前途は打ち開けます。